

# 介護現場における 生産性向上推進フォーラム2025

## 生産性向上の取組の考え方とポイント

株式会社TRAPE  
代表取締役 鎌田大啓

# 本日のアジェンダ

自己紹介

**なぜ今、生産性向上が必要なのか？**

**介護における生産性向上とは何なのか？**

**どのように改善活動を進めていけばいいのか？**

# 自己紹介



鎌田 大啓 (かまた ともひろ)

株式会社TRAPE 代表取締役

大阪大学 医学部保健学科 医学系研究科 招聘教員

## 厚生労働省 各種委員

平成28年度 厚労省「介護サービス事業における生産性向上に向けた調査事業」作業部会委員

平成30年度 厚労省「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン作成事業」検討委員会委員 (西日本エリアの介護事業所に対する現場介入実施、その成果をガイドラインに反映)

令和元年度 厚労省「介護施設等における生産性向上に資するパイロット事業」熊本県パイロット事業一式を受託しガイドラインの改定版作成に携わる

令和2年度 厚労省老健事業「介護現場における持続的な生産性向上の取組みを支援する調査研究事業」調査検討委員会 委員

令和3年度 厚労省老健事業「介護現場 (在宅系サービス) における持続的な生産性向上の取組を支援・拡大する調査研究事業一式」調査検討委員会委員

令和4年度 厚労省「介護現場における生産性向上」における各種委員会 委員

令和5年度 厚労省「介護事業所におけるデータ連携による生産性向上に関する調査研究」委員会 委員

令和5年度 厚労省「介護事業者の経営状況と生産性向上の影響の分析に関する調査研究事業」調査検討委員会 委員

令和6年度 厚労省「介護現場の生産性向上に関する普及加速化事業一式」(「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン」の改訂など) 検討委員会 委員

令和6年度 厚労省「介護現場の生産性向上に向けた介護ロボット等の開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業」作業部会委員

令和6年度 厚労省「地域における面的なケアプランデータ連携の促進に向けた調査研究事業」検討委員会 委員

令和7年度 厚労省「介護情報基盤の活用促進を見据えたケアプランデータ連携効果測定等事業一式」検討委員会 委員

令和7年度 厚労省「介護現場の生産性向上に関する普及加速化事業一式」(「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン」の改訂など) 検討委員会 委員

令和7年度 厚労省 障害者総合福祉推進「障害福祉現場の生産性向上に向けた調査研究事業」委員 など他多数

# 株式会社TRAPE（トラピ）のご紹介

## 生産性向上くん®



介護現場の生産性向上の取組  
成功させる鍵となる

**準備8割** チーム作り  
課題の見える化

をサポートするために生まれました



生産性向上ガイドラインに準拠

現場のリアルな「今」を把握するための  
「アンケート」や「タイムスタディ」を何度でも実施できます

利用料ずっと **0円**



「生産性向上ガイドライン」の理解を深め  
現場で実践するための「補助テキスト」

多様な役割のあふれる日常を創る  
**well-being**



## 伴走支援



### 事業所の生産性向上・人材育成・経営改善

- 現場の働きがい向上のための6ヶ月実践プログラム
- 経験学習によりミドルリーダーがマネジメントを習得
- 自分たちで課題が解決できる現場自律力をつける

since2020



フルオンラインで「伴走支援」を行い、数多くの事業所が成果を生み出しています

### 企画-実行-成果創出まで一気通貫の事業パートナー

都道府県・  
市町村事業

- モデル事業を通じた政策支援、エビデンス創出
- 生産性向上の推進、介護DX推進、地域内横展開
- 介護予防推進、成果創出に向けた政策見直し支援



会社所在地：大阪（新大阪駅 徒歩8分）  
特徴：全国各地にメンバーが在籍し、  
フルリモートで柔軟に働いています

# さまざまな伴走支援の例

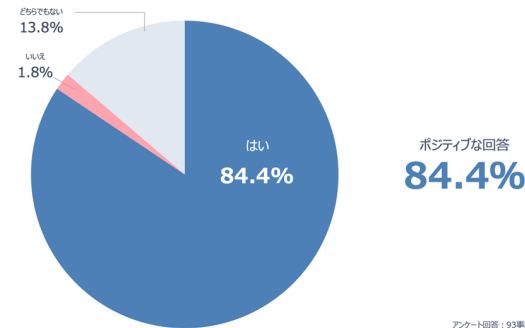
## ケアプランデータ連携システム推進モデル事業



## 効果的なテクノロジー導入・活用に向けた実践セミナー



今回のワークショップ体験は、今後のICT機器の選定・導入・活用に活かそうですか？



アンケート回答：93事業所 109名

47

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

## さまざまな都道府県・市町村でのケアプー推進モデル事業

### 介護助手-モデル事業



地域での新しい働き方  
**ケアアシスタント  
お仕事説明会**  
CARE ASSISTANT  
【ケアアシスタントの仕事】  
介護職員や利用者のサポートが主な役割です！

**12/13 (土)**  
13:30~15:30  
モリス事業所 介護福祉センター フォーラム4F  
会場：中央市民会館  
（受付時間：12月15日 介護福祉センター4F）  
連絡先：0476-22-1111

**12/6 (土)**  
10:00~12:00  
会場：中央市民会館  
（受付時間：12月13日 介護福祉センター4F）  
連絡先：0476-22-1111

**12/14 (日)**  
13:30~15:30  
モリス事業所 介護福祉センター フォーラム4F  
会場：中央市民会館  
（受付時間：12月15日 介護福祉センター4F）  
連絡先：0476-22-1111

**12/7 (日)**  
13:30~15:30  
モリス事業所 介護福祉センター フォーラム4F  
会場：中央市民会館  
（受付時間：12月15日 介護福祉センター4F）  
連絡先：0476-22-1111

申し込みは、お近くの生涯学習センターか、お近くの地域センターで受け付けてください！

生涯学習センター：0476-22-1111  
介護福祉センター：0476-22-1111

## JS 公益社団法人 全国老人福祉施設協議会 令和4年度・令和5年度 デイサービスの経営改善プロジェクト



## 介護における生産性向上施策の変遷と展開

# TRAPEが関わった介護における生産性向上施策の変遷と展開

生産性向上国民運動  
推進協議会事業

介護業界で「生産性向上」  
という言葉が公に登場



事業所への伴走支援

介護現場革新会議  
パイロット事業

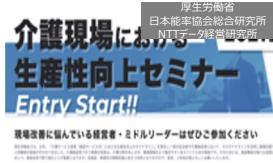
自治体向けガイドライン  
を制作



熊本県パイロット事業  
事業所への伴走支援  
働きがい成果指標  
の測定を独自に開始

生産性向上全国セミナー  
(フォローアップセミナー)

セミナー内での対話を通じて  
取組みの中で生じた課題を解決



事業所への伴走支援  
事業所からの個別相談

介護生産性向上  
総合相談センター  
(ワンストップ窓口)

生産性向上の取り組み  
都道府県を中心に展開へ



ケアプランデータ  
連携システム  
あomor介護生産性向上相談センター様  
各種事業支援  
ロボット窓口に対する  
各種事業支援  
事業所への伴走支援

介護生産性向上  
総合相談センター  
(ワンストップ窓口)

地域を支えるワンストップ窓口  
さらに発展



デジタル  
中核人材  
報酬改定  
加算  
ワンストップ窓口様  
各種事業支援  
ロボット窓口に対する  
各種事業支援  
事業所への伴走支援

2017

2018

2019

2020

2021

2022

2023

2024

2025

2026

生産性向上モデル事業  
(ガイドライン策定)



実際に伴走支援を行った  
事業所での取組みエッセンスを元に  
生産性向上ガイドラインを制作

事業所への伴走支援  
生産性向上の取組ステップ  
をガイドラインに型化

「ICT導入支援事業」  
「介護ロボット導入支援事業」

生産性向上全国セミナー  
(ビギナーセミナー)



全国の介護事業所向けに  
現場改善のきっかけを生み出すセミナー

事業所への伴走支援  
事業所からの個別相談

介護ロボット普及  
プラットフォーム事業  
(相談窓口・リビングラボ・実証フィールド)

介護ロボット普及  
プラットフォーム事業  
(伴走支援)



ロボット相談窓口で  
モデル事業所への伴走支援

ロボット窓口に対する  
各種事業支援  
全国1/3の窓口の業務アドバイザー  
事業所への伴走支援

介護生産性向上  
総合相談センター  
(ワンストップ窓口)



生産性向上関連  
加算

ワンストップ窓口様  
各種事業支援  
ロボット窓口に対する  
各種事業支援  
事業所への伴走支援

ガイドライン改定(中間取りまとめ)  
ワンストップ窓口の運営支援手引き改定

改訂ガイドライン  
各サービス  
共通版

TRAPEが関わりを  
持たせていただいた事業

## なぜ今、生産性向上が必要なのか？

介護現場を取り巻く社会的背景と生産性向上の取組の必要性

# ギャップを生み出す要因は「社会環境の大きな変化」



## 外部環境はさまざまな変化の連続



人口構造の変化

テクノロジーの進化

# 「ひと」との向き合い方のアップデート

## 人口減少による人の希少価値の高まり

(職員、利用者・家族)

### 人的資本経営への転換

- 職員を「利益や価値を生む存在」として、「資源」ではなく「資本」と位置づけ、投資の対象として捉える
- 一人ひとりの成長と貢献を促進する環境づくりを進める

#### 人への積極投資

### 利用者中心のサービス革新

- 利用者とその家族が「自分らしく生きること」を支援する新たなサービスを生み出す
- 利用者満足と職員のやりがいを同時に高める好循環を生み出す

#### 職員への「いい体験」の提供

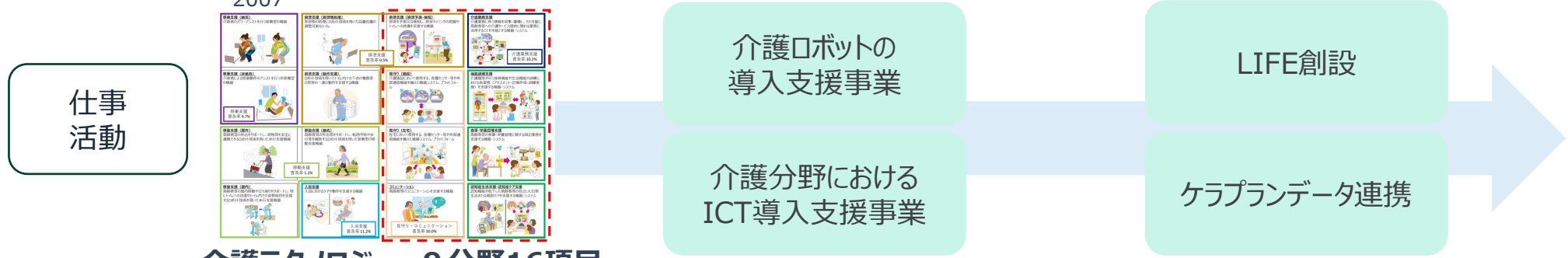
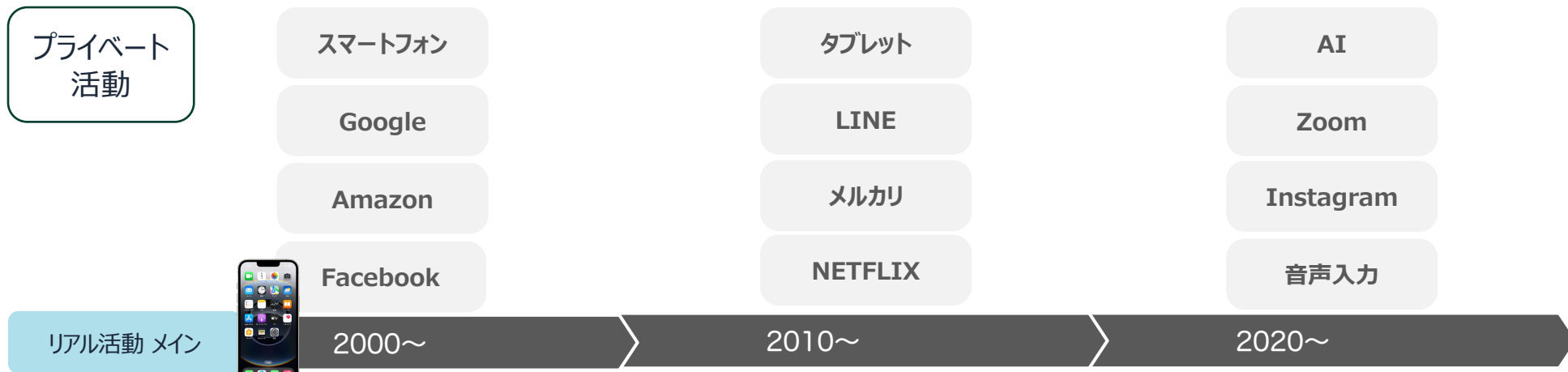
- 「働きやすさ」という土台の上に「働きがい」を生み出せる環境を構築
- 介護職の働きがい = 利用者と関わる中で生み出される傾向にある

#### 発展する組織へ

- 人材の育成・定着・確保の好循環により、社会環境の変化に適応しながら成長し続ける組織文化を構築

# 活動は、リアルオンリー から『テクノロジー×リアル』へシフトしている

## 日常生活で身近になったテクノロジー



介護テクノロジー 9分野16項目 (Nursing Technology 9 Fields 16 Items)

介護テクノロジー 9分野16項目



介護業界においても  
テクノロジー導入が急速に進んでいる

# 「活動-テクノロジー」との向き合い方のアップデート

## 人がテクノロジーを使う理由は極めてシンプル 「便利だから」「ワクワクするから」

### 活動との向き合い方を アップデート

- テクノロジーの活用は、私たちの行動の選択肢を広げ、これまでにない体験の深さと豊かさを可能にする
- テクノロジーを活用して活動をアップデートするということは、自分が「どの活動を、どのように変えたいのか」、その目的と方向性を自らイメージすることから始まる

### 体験価値の向上に 注力する

- テクノロジーを活用することで自分、他者が欲している便利さ、ワクワクさを生み出していく
- 体験価値を感じないと、持続的活用や発展的活用に繋がらない

### テクノロジー リテラシー の向上

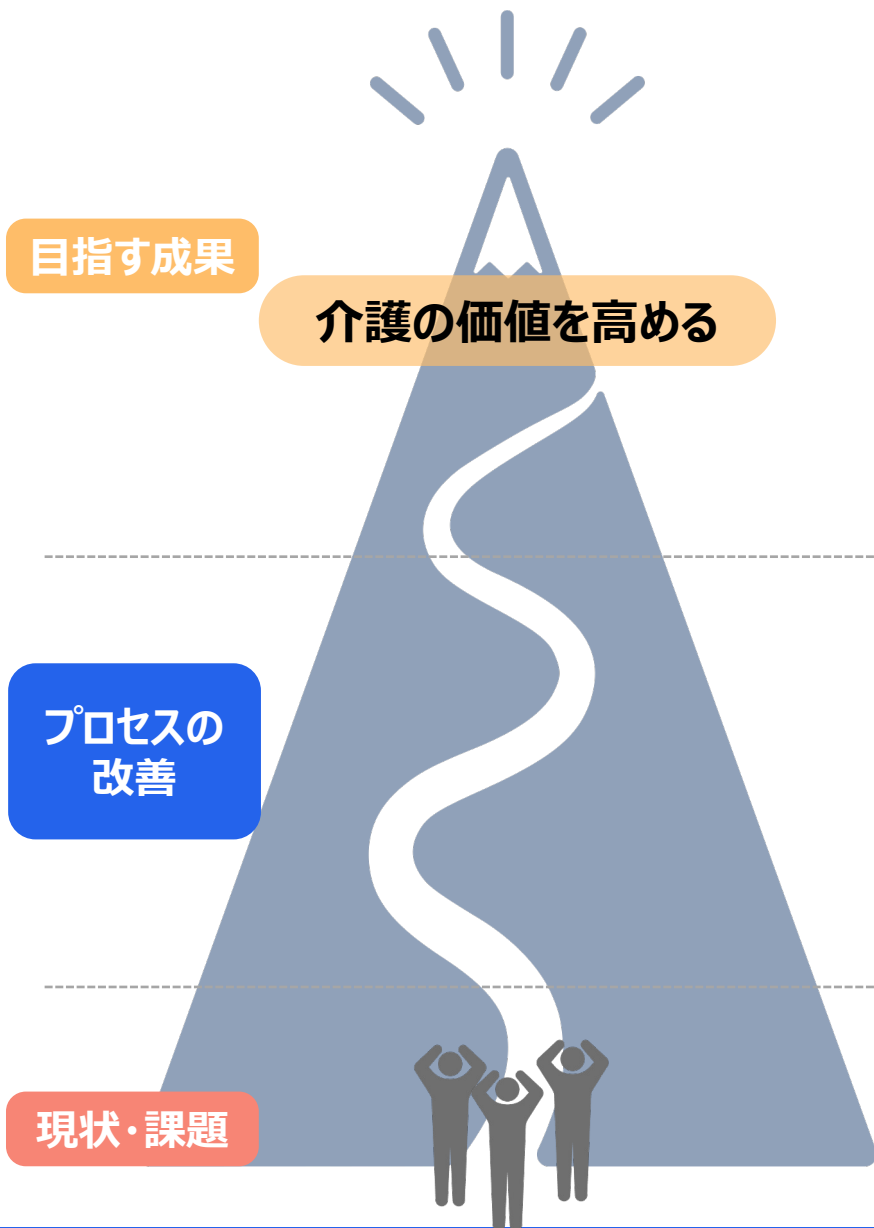
- 学んでからやるより、体験しながらおぼえていく
- 一人ひとりがテクノロジーの活用に対して、自分なりのワクワク感、意味づけを持てるようにすることが重要



テクノロジーを活用しても、人や組織の考え方が従来のままではそのギャップがかえって現場の負担となり、生産性を下げてしまう…

**介護における生産性向上とは何なのか？**

# 介護における生産性向上とは？



目指す成果

介護の価値を高める

プロセスの  
改善

現状・課題

利用者・家族 = より良いケア (選択のある人生)  
職員 = 働きやすさ・働きがい 新たな体験価値創出

現場の余力を生み出す  
(時間・気持ち) 業務オペレーションの効率化・省力化、  
コスト削減

現場で新たな取り組み要素も活用  
(テクノロジーや介護助手)

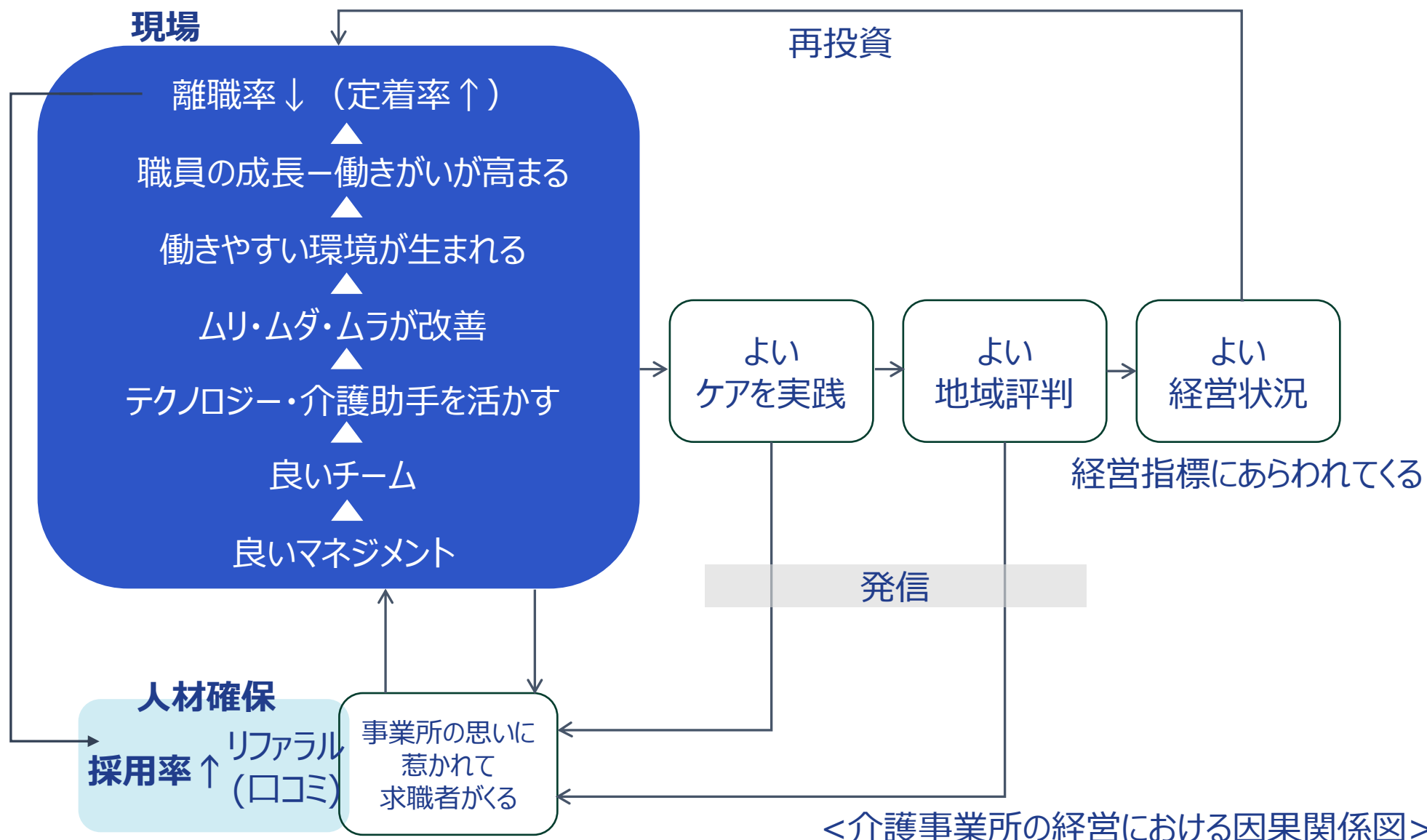
現場業務における  
マネジメントの構築

現場の課題  
(ムリ・ムダ・ムラ)



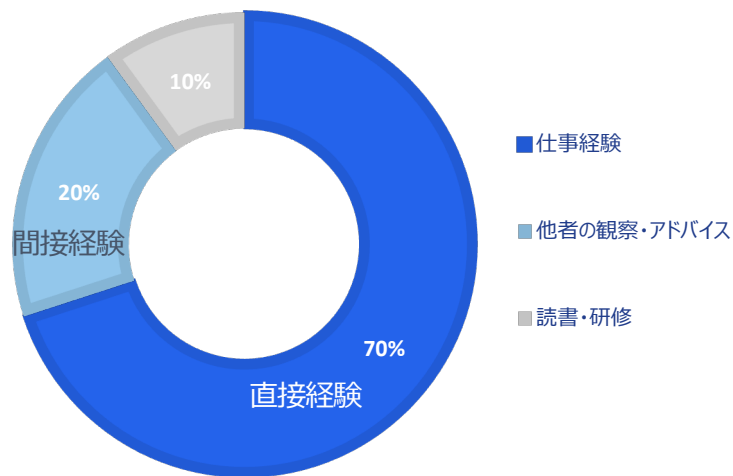
生産性向上の取り組みは、  
足元 (現状・課題) から  
頂上 (目指す姿) へと山  
登りをするように一歩ずつ  
進めていく

# 働きがいの高い現場は、組織に好循環を生み出す



# 生産性向上の取組み(DX含む)は、最高の自律的人材を育成できる

成人における学び・成長  
70:20:10の法則

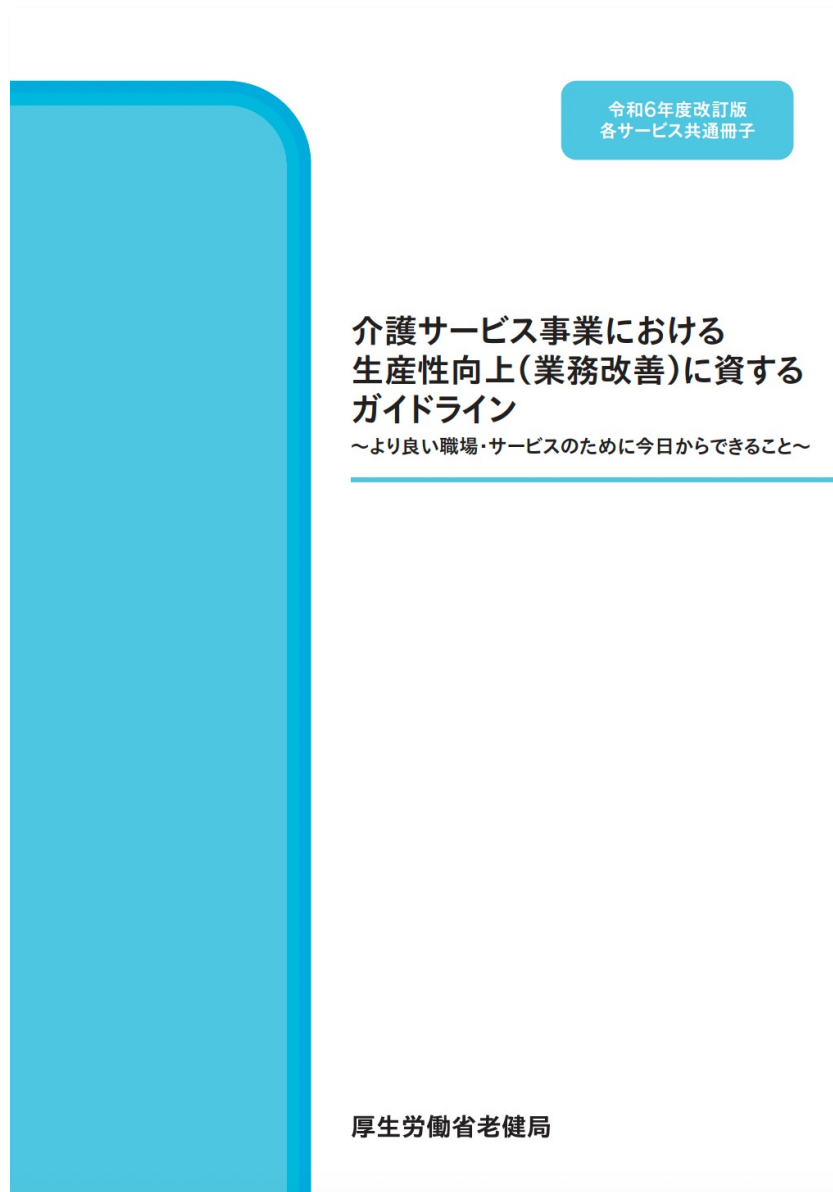


経験学習サイクル



どのように改善活動を進めていけばいいのか？

# 令和7年度改訂された「共通版ガイドライン」をフル活用しましょう！



# 改善活動の標準的な6ステップ

## “要注意”

ここからスタートはリスクが高い！

いきなり

- ・テクノロジー機器選定・導入
- ・介護助手導入
- ・アナログ的改善活動開始

ステップ⑥  
実行計画を練り直す

ステップ⑤  
改善活動を振り返る

ステップ④  
改善活動に取り組む

ステップ③  
実行計画を立てる

ステップ②  
課題を見える化する

ステップ①  
改善活動の準備をする

ありたい姿

理念・ビジョン・ミッション・バリュー

DXビジョン } テクノロジーを  
DX戦略 } 活用する場合

業務改善による生産性向上の  
ためのアプローチ

- アナログな業務改善  
(職場環境の5S、手順書)
- 介護助手などの活用
- テクノロジー導入・活用
- 協働化

時には、立ち止まり  
戻ること戦略の1つ→「戦略的撤退」

成功の秘訣  
「準備8割」

# 令和7年度改訂された「共通版ガイドライン」

令和6年度改訂版  
各サービス共通冊子

## 介護サービス事業における 生産性向上(業務改善)に資する ガイドライン

～より良い職場・サービスのために今日からできること～

厚生労働省老健局

CHAPTER

## 2 生産性向上に向けた 改善活動の標準的なステップ

CHAP  
2

生産性向上に向けた改善活動の標準的なステップ

### 改善活動のステップとポイント

この章では、改善活動の標準的なステップを具体的なツールの活用方法も交えながら、より実践的に紹介します。Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(修正)を繰り返し行うことが、PDCAサイクルを回すことです。何度も繰り返しPDCAサイクルを回すことで、継続的に改善活動に取り組みましょう。是非、改善活動に取り組む際の参考にしてください。

なお、詳細なツールの活用方法は、CHAPTER 3をご参照ください。



	ステップ	進めるコツ	使用するツール
活動が 段階 ご で 進 行 し た ら 、 次 の 改 善 活 動 に 向 け た 準 備 を 	<b>ステップ1</b> 改善活動の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善活動をするプロジェクトチームを立ち上げ、プロジェクトリーダーを決める</li> <li>経営層から施設全体への取組開始のキックオフ宣言をする</li> <li>外部の研修会を活用する</li> </ul>	
	<b>ステップ2</b> 現場の課題を見える化しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>「課題把握シート」「気づきシート」から課題を抽出する</li> <li>「因果関係図」「課題分析シート」により課題を構造化する</li> <li>「業務時間見える化ツール」により業務を定量的に把握する</li> </ul>	課題把握シート 気づきシート 課題分析シート 業務時間見える化ツール
	<b>ステップ3</b> 実行計画を立てよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えられる取組を出し合い課題解決までの道筋を描き、「改善方針シート」で整理する</li> <li>「進捗管理シート」において成果を測定する指標を定める</li> </ul>	改善方針シート 進捗管理シート
	<b>ステップ4</b> 改善活動に取り組もう	<ul style="list-style-type: none"> <li>まずはとにかく取組み、試行錯誤を繰り返す</li> <li>小さな改善事例を作り出す</li> </ul>	
	<b>ステップ5</b> 改善活動を振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>「効果測定ツール」「進捗管理シート」により予め定めた成果指標や観察のポイントを確認する</li> <li>上手くいった点、いかなかった点を整理する</li> </ul>	効果測定ツール 進捗管理シート
	<b>ステップ6</b> 実行計画を繰り返そう	<ul style="list-style-type: none"> <li>上手くいった点、いかなかった点について、分析を加える</li> <li>他の取組も含め、実行計画に修正を加える</li> </ul>	

### ステップ1とステップ2をおろそかにしてしまわないで

PDCAサイクルはPlan: 実行計画から始まりますが、実際の取組では「PDCAの準備」(ステップ1とステップ2)の段階がとて重要で、プロジェクトチームを組成し、組織全体でプロジェクトに取り組む目的や意義について共有しましょう。ここでは経営層から組織全体に向け取組によって実現したいことやその実行体制等を示し、プロジェクトのキックオフを宣言をします。プロジェクトやプロジェクトチームの位置付けを明確にすることが、その後の取組

の円滑な進行につながります。  
ステップ2: 課題の見える化では、現場の意見を集め、業務時間調査や因果関係図等により、現状の業務フローや職場の課題を明らかにします。これにより、改善活動の実行計画を策定することが可能になります。このように、課題に対して適切な打ち手を講じるためには、その前段で課題を構造的に捉え、真の課題を明らかにしておく必要があります。  
PDCAサイクルを回すためには、実行体制の整備と課題の見える化が前提となります。取組が上手くいかない場合は、この「PDCAの準備」の段階まで立ち戻ってみることも有効です。活動をとん挫させないために、「準備8割」を合言葉に活動を進めましょう。

# 介護現場における典型的な改善活動の取組内容

## 1. 職場環境の整備



## 2. 業務の明確化と役割分担 業務全体の流れを再構築



## 3. 業務の明確化と役割分担 テクノロジーの活用



## 4. 手順書の作成



## 5. 記録・報告様式の工夫



## 6. 情報共有の工夫



## 7. OJTの仕組みづくり



## 8. 理念・行動指針の徹底



# ステップ1


## 改善活動の準備をする 「チームを作る」

- 1 経営者が今後の経営と向き合う  
(変革への思いをもつ)

経営戦略として生産性向上に取り組む
- 2 プロジェクトを立ち上げるチームづくり  
(委員会)

ガイドラインを基に、課題の抽出・現状整理・業務改善策の検討・振り返りなど、委員会の議事運営を段階的に進める  
特に、3か月に1回以上の開催
- 3 外部研修を活用する

厚生労働省「介護分野における生産性向上ポータルサイト」なども積極的に活用する


- 4 取組む場所を決める (小さく始める)

例：ユニット、フロア、事業所
- 5 目的を共有する (キックオフ)

経営者の本気の語りは現場を動かす

## ステップ2 課題の見える化をしよう

1 現場から課題を多く出してもらおう

職員の声をできるだけ多く集める

2 課題を整理/解釈するー因果関係(図)

集めた課題をそのままにせず、対話を通じて意味づけを行い、現状を整理することで、自分たちの現場の実態を把握し、業務改善策の検討に向けた土台をつくる

3 課題を絞り込む

多様な課題の中から、優先的に取り組むべき対象を検討・選定する

4 絞り込んだ課題をデータ検証する

みんなから出た声（課題）をデータとして見える形にすることで、「なぜそれが課題なのか」を自分たちのこととして、より深く理解できるようになる

# ステップ2

## 課題の見える化をしようー現場の状況を知るための手段はさまざま

### 気づきシート

気づきシート

事業名: \_\_\_\_\_ 部署・担当: \_\_\_\_\_ 氏名: \_\_\_\_\_

仕事で自覚している疑問や、解決したいこと等、あなたが気づいたことを自由に記述してください  
(※ 事業所の運営、業務の仕方、ルール、介護のやりかた、勤務形態、シフト、人間関係など、どんなことでもOK)

入浴の時間帯にフロアが人手不足になるため、見守りがたいへん

※実際の状況が分かるように書きましょう。記入例: ●●のときに、●●したいと思うが、●●のせいではない

上記に関して、解決策はあると思いますか? (いづれかに○)

あると思う       ないと思う

思いつく解決策を記入してください       そう思う理由を記入してください

入浴の時間帯にフロアが人手不足になるため、見守りがたいへん

### アンケート

12 食事業務に課題がある

1 2 3 4 5

あまり当てはまらない

13 入浴業務に課題がある

1 2 3 4 5

ある程度当てはまる

14 排泄業務に課題がある

1 2 3 4 5

ある程度当てはまる

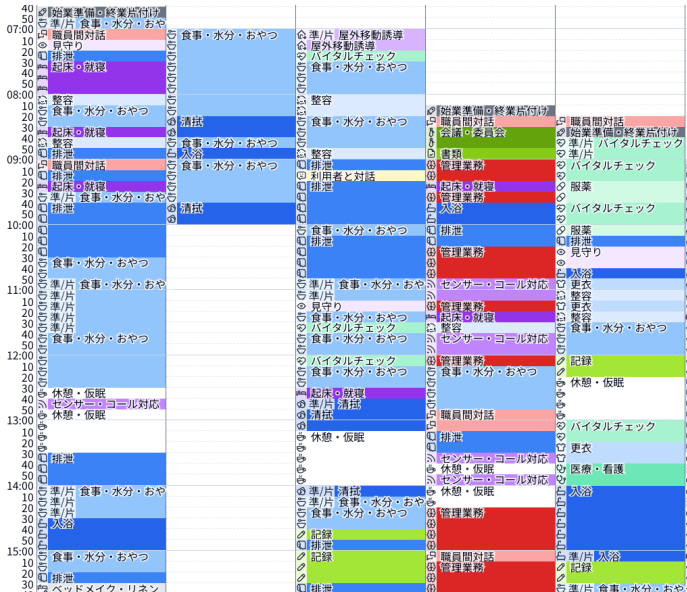
15 見守り業務に課題がある

1 2 3 4 5

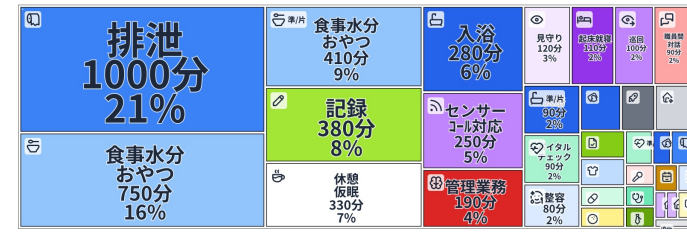
とても当てはまる

『生産性向上くん』より

### タイムスタディ



業務ランキング



『生産性向上くん』より

### Point

- ステップ2は、現場職員が自分の思いや課題を率直に吐き出し「自分たちの課題は何か」を言語化・共有し、チームビルディングを行っていくフェーズ
- だからこそ、まずはハードルの低い方法で課題を見える化・共有することも重要
- その後、タイムスタディなど、多少手間はかかるもののより客観的に現状を捉える取組みを重ねていくことで、さらに現状把握が進むことが多い

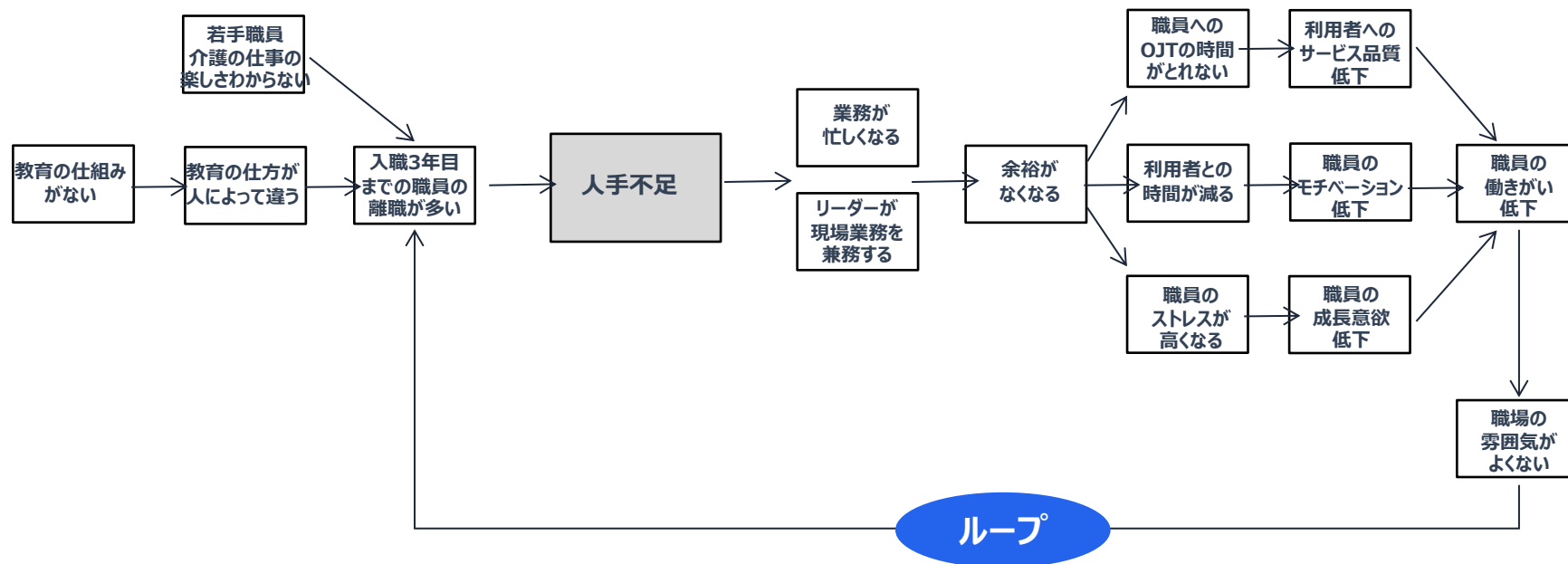
### チームでの対話・内省・解釈が重要

心理的安全性の高い環境づくり

# [参考] 因果関係図

## 原因

## 結果



因果関係図とは、自分たちの現場で起きている課題について「原因」と「結果」のつながりを整理し、課題の構造や背景、現場の状況を俯瞰的に理解するのに役立つ図です

# ステップ3 実行計画を立てよう

- 1 取り組み課題について業務を棚卸しする

取り組む課題の業務の工程を出してみる  
業務仕分け—直接業務・間接業務  
業務全体の流れと向き合う
- 2 改善すべき業務工程とありたい姿を明確にし  
課題解決に必要な状況(要素・機能)を整理する

業務工程の中で、変えるべきことと変えなくてもよいことを明確にする。そして、変えるべき工程については、どのような状態にしたいのかを明確にする
- 3 改善活動のアプローチを選択する

例：アナログな業務改善、介護助手など活用、テクノロジー活用  
協働化  
(自事業所の枠を超え、共通の課題を“可能性”に変えるために共に取り組む)

どのような状況を目指すかによって、改善活動に必要な  
取り組み要素は変わってくる。だからこそ、自分たちの現状や目的  
に合った手段を選ぶことが重要  
例：直接業務→「テクノロジー活用」へ  
例：間接業務→「介護助手」「ケアプランデータ連携システム」へ  
例：業務全体の流れ→「マスターライン」へ
- 4 アプローチ内容を具現化する  
(アプローチ仮説を作る)

選んだ手段について、業務工程の中で「誰が・いつ・どこで・ど  
のように活用するのか」を明確にし、具体的な取り組み仮説を  
立てる
- 5 KPIを立てる

定量データ (数値で表現できるデータ) : 時間、回数、件数…  
定性データ (言葉・印象・感覚で表現されるデータ)

# 自分たちに合うテクノロジーの見つけ方

## 現状の業務課題

いつ・何に  
どのように  
困っているのか

## 目指すこと

それを  
どんな状態に  
変えたいのか

## テクノロジーとの マッチング要素

それを  
実現するために  
どんな機能・機器が  
要るのか



+

そのうえで…

- ワンストップ窓口相談
- 展示会に参加（ベンダーに相談）
- 機器使用貸し出し
- 予算組み、補助金申請

- 
- 通信環境（Wi-Fi）
  - 導入・活用スケジュール
  - 基準・ルール・マニュアル（手順書）作成など

# 介護テクノロジーの情報を得る

福祉用具情報システム（TAIS）は、国内の福祉用具製造事業者又は輸入事業者から、「企業」及び「福祉用具」情報を収集し、テクノエイド協会のホームページから情報発信するシステム

介護テクノロジーのカテゴリから探す NEW!

利用シーン から探す



起居・就寝 移乗 立ち座り 移動



排泄 入浴 食事 服薬管理



整容 コミュニケーション 見る(視覚) 聴く(聴覚)



リモコン操作 外出 見守り その他

主な 利用場所 から探す



寝室 リビング・居間 ダイニング・食堂 トイレ



浴室・脱衣所 廊下 階段 玄関



段差・縁石 職場 学校 公共施設



病院・介護施設 その他

※限定されないものはその他に含まれています。



## 福祉用具・介護ロボットの 開発と普及 2024

令和7年3月

厚生労働省  
Ministry of Health, Labour and Welfare



# ステップ4

## 改善活動に取り組む

1 小さな行動を重ねる

毎日の積み重ね  
打席に立ち続けることが重要  
アジャイルに行く

2 トライ&エラー（仮説-検証繰り返す）

失敗を恐れない。失敗で終わらなければ  
それは学び（ラーン）となっている

3 チームで取り組む

個人プレーは真の成果を生み出さない  
（継続的な取り組みになりにくい）

4 対話と内省を繰り返す

日々、変化していく自分たちの現状を実感し、仲間と共有することで、新たな気づきを得て、次の取り組みに活かしていく

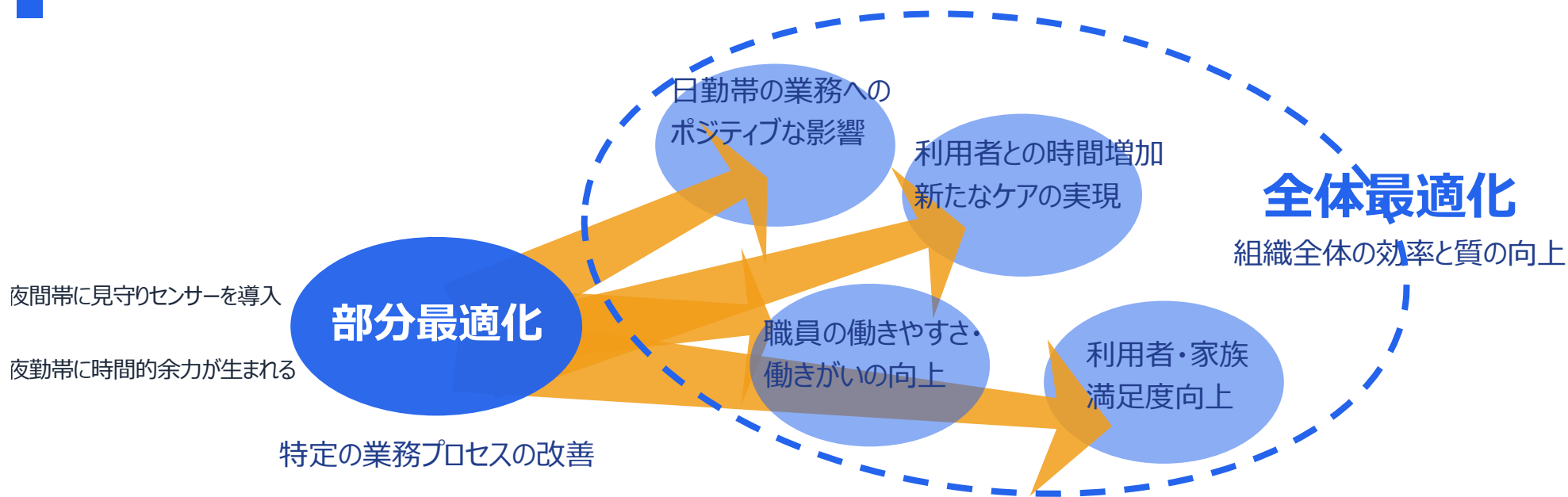
# ステップ5 改善活動を振り返ろう

1 成果/達成度を確認する(定量・定性)

ステップ2 やステップ3 で行ったことと対比する

2 振り返りの対話・分析をする

うまくいったこと、うまくいかなかったことについてみんなで対話して  
新たな気づきを得る

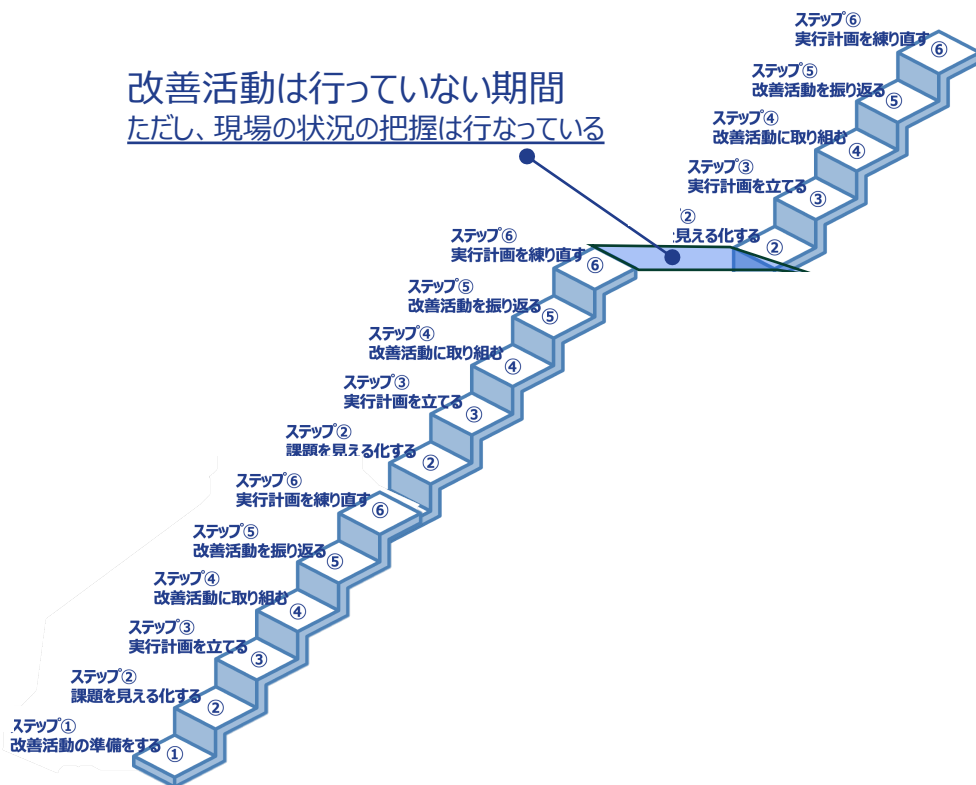


# ステップ6 改善活動を振り返ろう

## 1 振り返りの対話・分析を元にして、次なる改善活動へ

成果あり一次の課題に取り組む  
課題あり一再び同様の課題に取り組む など

改善活動は行っていない期間  
ただし、現場の状況の把握は行なっている



- 生産性向上やDX（デジタル化）は一度やれば終わり、という「イベント」ではない
- なぜなら、現場の状況や人員配置、利用者のニーズは日々少しずつ変化していくから
- だからといって、取組みを毎回大きく変える必要はない
- 月に1回、あるいは3か月に1回など、定期的に現場の状況を把握する仕組みを持っておくだけで、必要なタイミングで無理なく対応できるようになる【生産性向上委員会】
- その中で、新たな課題が見えてきたと感じたときこそ改善活動を再スタートするチャンス
- このように小さな一歩を積み重ねていくことで理想とする組織の姿に、着実に近づいていくことができる

**No Role  
No Life**